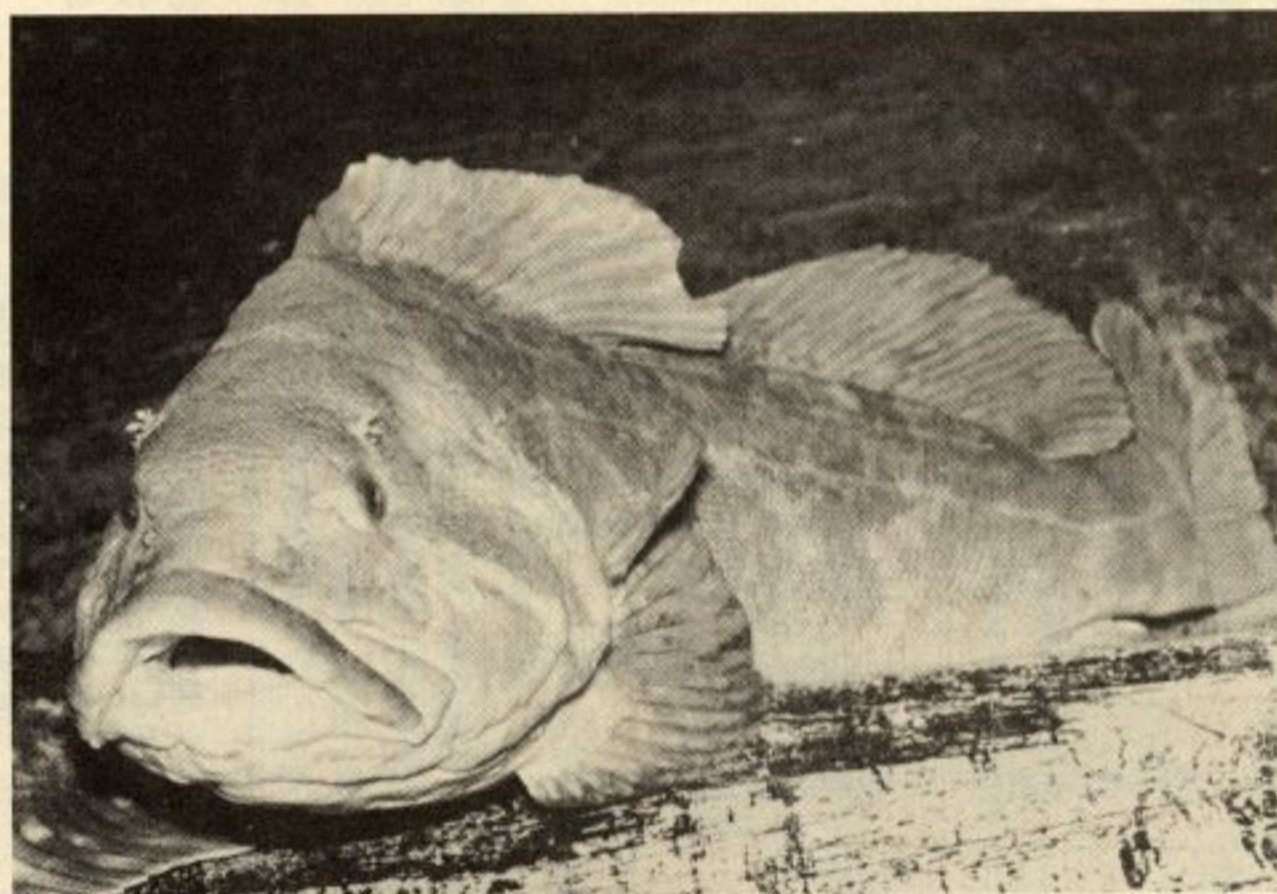


日本海の魚たち

ウサギのつく魚たち
男性は鮮明な赤紫色

ウサギアイナメ



ウサギアイナメの成魚(全長五八センチの雄)

ウサギ年にちなんで、名前にウサギのつく魚を紹介しよう。

和名ウサギアイナメは、北海道から北洋、日本海北部に分布するが、主漁場は北海道東部の太平洋岸である。近縁種のアイナメ(シンジョ)やホッケと同じく側線は五対、全長約六〇センチ産卵期は初冬で、成熟した雄の体色は鮮明な赤紫色、雌は黄褐色と地味なので識別は簡単だ。水深一五〇〜二〇〇メートルに生息、主に底引き網で春に漁獲されるが、味はアイナメより劣る。

当館には網走近海でとれたウサギアイナメの一カップルがいる。おデコの出っ張り具合や顔の輪郭、赤みを帯びた目がウサギを連想させるのだろう。大抵二匹並んで底に腹ばいになり、時折、向かい合って口づけし、絡み合う場面も見られるが、これが愛情の表現なのか、いがみ合いなのか定かではない。

本場の網走オホーツク水族館では水槽内産卵例がある。この場合、父親が卵塊を保護するアイナメ科共通の習性が、どうい

うわけか不十分で、結局ふ化するに至らなかったという。

北海道でウサギザメ、千葉県でウサギと呼ぶのは和名ギンザメ(日本列島・東シナ海、水深一〇〇〜五〇〇メートル)のことで、近縁種の和名ココノホシギンザメ(青森県・銚子、水深二〇〇〜一、一〇〇メートル)は別名ウサギギンザメと呼ぶ。どちらも全長一メートル、底引き網で漁獲されカマボコの材料になる。下向きの口にウサギの門歯のような歯板が並んでいて、英名でもラビットフィッシュだから面白い。

ギンザメ類は交尾によって体内受精し、長だ円形の硬い殻に包まれた大型卵を産む。雄には先端が三つ又の交尾器が二本あるほか、交尾補助用として腹部に二本、額に一本の軟骨突起がある。各突起には鋭いカギが密生していて、雄が雌を抱擁する際、カギを雌の体に引っ掛けて目的を遂げるのだ。そこで、春の交尾期には、モテル雌ほど生傷が絶えないことになる。

(竹内 健・男鹿水族館長)